

いつでもどこでも図書館を

「地域の身近な学習拠点」として

図書館機能の向上を図る文京区の取組

文京区といえば、森鷗外や夏目漱石といった名だたる文人の足跡が残る文豪のまち。そして東京大学をはじめ、多くの教育機関が集まる文教のまちでもあります。図書館の歴史も古く、そのルーツは明治43年（1910年）、文京区がまだ小石川区と本郷区に分かれていた頃に設置された東京市立簡易図書館にさかのぼります。昭和22年の区制開始後も、特色ある図書館行政を行ってきた文京区。移り行く時代とともに図書館に求められる役割や機能が変化する中、新たなチャレンジに取り組んでいます。

最大の特徴は、どこもが歩いて行ける距離に図書館があること

東京23区でトップの 図書館密度

文京区は、区立図書館の中心館として機能する真砂中央図書館をはじめ、東京市立簡易図書館を始まりとし100年以上の歴史を持つ本郷図書館・小石川図書館など、区内に8つの図書館、2つの図書室、2つの取次窓口を設置しています。

区の面積は、11・29平方キロメートルで23区内では下から数えて4番目。どこからでも概ね1キロメートル圏内に図書館があるという、図書館密度は23区トップです。

1キロメートルといえどもやや高齢者も歩いて行ける距離。区内どこ

らでも1キロメートル以内に図書館があるのは、文京区立図書館最大のアピールポイントです。

その成果は数値にも表われています。文京区における1人当たりの貸出数は約15冊で、これも23区中トップ。1人当たりの蔵書数は千代田区に次いで2位と、区民の生活に図書館が根付いていることが伺われます。（※）

学校図書館支援員の派遣や、図書資料の団体貸出を通じた小・中学校との連携、地域のお祭りなどに出版しての「おはなし会」の開催、区内7大学との連携による大学附属図書館の区民開放なども、図書館と区民との密な関係づくりに寄与する取組です。

※貸出数、蔵書数ともに令和7年4月現在のデータ

館ごとに特色のある蔵書が 文京区立図書館の魅力

文京区には大規模図書館がない代わりに、各館で専門的資料収集の役割分担を定め、担当分野の資料を集中的に収集・保存しています。

真砂中央図書館は区の中央館として、図書館の今後の政策や方向性の舵取りを担っています。区内で一番多くの所蔵数を誇り、歴史が長い文京区の貴重な地域資料をはじめ、最新の行政資料等を収集保存しています。それらの資料を活用した、区役所の各部署からの調べものに対応するレファレンス



サービス「図書館ねこの手」の実施も、中央館機能の一環です。

小石川図書館は、法律・教育・日本文学の収集を担当するかたわら、レ



小石川図書館の2階は約2万点のアナログレコードのほか、CDやDVDなどの視聴覚資料を開架

コード・ライブラリーとしても知られている存在です。アナログレコードの所蔵数は約2万点。CDもほぼ同数収集しており、これほどの視聴覚資料を



本郷図書館地下1階にある鷗外コーナー。同じ階にある「サンクンガーデン」には、鷗外が詩歌に詠んだ沙羅の花が咲く

揃えている公共図書館は全国でも例がありません。音楽関係の図書はもちろんのこと、近くに石川啄木終焉の地があることから、啄木関係の資料の収集



本郷図書館・根津図書室では毎年秋に開催される「根津・千駄木下町まつり」に出店、おはなし会を行っている

に力を入れていることも特色です。本郷図書館では、近代日本文学を専門的に収集しています。一時、森鷗外の終の棲家であった「観潮楼」跡地に建っていたことから、現在地に移転した後も「鷗外コーナー」を設置。鷗外の著作やその評論のほか、娘である森茉莉、小堀杏奴の著作も読むことができます。

水道端図書館は地理・紀行、児童書等、目白台図書館は哲学、宗教、美術、千石図書館は映画、演劇、外国文学、湯島図書館はビジネス書を主として収集。収蔵能力を最大限に活用したサービス提供体制を構築しています。

★ 変わる図書館の在り方を見据え、更なる利便性向上・利用促進を図る

書棚を眺める感覚をオンラインで

3D書架ブラウジングサービス

文京区では、「文の京」総合戦略（令和6年度～令和9年度）の中で、図書館のICT化推進を図ることとしています。令和8年度には3つの施策を実施することになっていますが、中でも

目玉は「3D書架ブラウジングサービス」です。

区立図書館全館の蔵書図書の背表紙を撮影した3D書架（仮想本棚）をウェブ上に構築することで、実際の本棚を閲覧（ブラウジング）するように本との偶然の出会いを創出します。令和8年10月下旬からのサービス開始を予定しています。

あたかも来館して書棚を眺めている

かのような感覚をウェブ上で体験することは、意図せぬ新たな発見、知的探求の深化を促し、「資料と出会う場」として図書館が再認識される機会を創出します。また、地域の知的・文化的資源を視覚的に提示し発信することで、図書館の魅力の向上、地域文化の発信力強化につながることが期待でき

ます。

時間や場所に縛られず、図書館の本棚を眺めながら、本を探すことができるとも魅力です。新たな図書館の利用機会を提供することで、さらなる利用促進も企図しています。

通勤・通学途中に資料を受取 文京シビックセンター 予約図書受取ボックス

資料を予約したが開館時間に受け取りに行けないので開館時間を延長してほしい。そうしたニーズはかねてからあったものの、文京区立図書館の開館時間は朝9時から夜9時までと比較的長く、これ以上の延長は困難でした。そこで、図書館に来館しなくても、通勤・通学のついでに予約資料を受け取れるようにできないか。そうした発想から生まれたのがボックスを経由した

図書受け取りのサービスです。

文京シビックセンターは、東京メトロ丸ノ内線・南北線の後楽園駅、都営地下鉄三田線・大江戸線の春日駅に直結しており、返却ボックスは既に設置済み。受取ボックスを設置するには最適な場所でした。朝7時30分から夜10時まで利用できることでも利便性が高く、令和8年9月のサービス開始以降、利用者の反響も上々です。このサービスをきっかけとした新たな利用者の獲得も期待されています。

こどもたちが本に触れる 機会を創出 小中学生・高校生世代向け 電子書籍サービス

こちらから令和8年9月に始まったばかりのサービスです。区内の小中学生及び高校生世代を対象に、区立図書館の電子書籍用ID及びパスワードを配布、タブレット端末を活用して、いつでもどこでも本に触れられる環境を整備したものです。「文京区子ども読書活動推進計画」の一環としても推進している取組で、こどもたちにより多く

の読書機会を提供し、多様な興味の広がりに応えることを目的としています。

電子書籍には、ライセンスの関係から貸出冊数に制限がある資料もありますが、このサービスでは読み放題1000コンテンツを揃えています。同じ本を同時に何人でも、いつまでも読める環境を整備し、学校での調べ学習に役立てることも意図しています。



3D書架ブラウジングサービスで見られる書棚のイメージ



図書を選択すると、タイトルや内容紹介などの情報を確認でき、検索システム (OPAC) へ遷移して予約もできる



文京シビックセンターの1階に設置された予約図書受取ボックス



電子書籍サービスのトップ画面

「地域の居場所」としての図書館

ICTを活用した「非来館型」のサービスを充実させる一方、図書館には「地域の居場所」としての機能も求められています。そうしたニーズに応える「滞在型」のサービスも着々と進めています。

真砂中央図書館では、閲覧席を増やし、区立図書館では例のない120席を設置しています。うち60席が電源席

で、無線LANも使用も可能、持ち込んだパソコンを使いながら資料閲覧や調査をすることができます。各席に置かれたQRコードを読み込んで、席をスムーズに利用できるシステムも取り入れ、昨今の多様な働き方やICT化にも対応しています。

親子で絵本の読み聞かせをしたり、寝転んでくつろいだりができるスペースを区内全ての区立図書館に備えていることも、「居場所」づくりの一環と言えるでしょう。



真砂中央図書館の閲覧席 120 席のうち、60 席が電源席で PC を持ち込んでの閲覧や調査が可能



寝ころびもできるスペースでは読み聞かせやおはなし会、親子を対象とした催しなども行っている

文京が目指すこれからの図書館のあるべき姿

図書館の改築を機に 図書館機能のさらなる向上を 目指す

いまや図書館は、単に本を貸し出すにとどまらず、図書資料を生かした新たな発見や学習のきっかけづくりなど、さまざまな学習を支える拠点として存在意義が求められています。一方で、老朽化という課題にも向き合いつつ、設備の更新にとどまらない図書館機能の向上を図っていかなくてはなりません。現在リニューアル工事中の本



80th & 50th アニバーサリー 記念感謝祭を機に 図書館の魅力を発信

文京区では、これからも「いつでもどこでも図書館」を合言葉に、図書館を「地域の学びの拠点」として、その機能をさらに向上させるための取組を続けていきます。

令和8年度は区制80周年、真砂中央図書館開館50周年の節目の年にあたり、それを記念した感謝祭の開催を予定しています。各館をめぐるスタンプ



文京区図書館
公式サイト



真砂中央図書館 X

ラリーや講演会、記念利用者カードの発行など、図書館利用を促進するためのさまざまなイベントやキャンペーンを計画。この機会を図書館の利用を促進するチャンスと捉え、図書資料に触れる楽しみ、喜びをさらに広げていきたいと考えています。